

2022年度 日本工学院専門学校											
声優・演劇科											
声優演技Ⅱ											
対象	2年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	70	単位	2
担当教員	吉村智樹			実務経験	有	職種	声優・俳優				
担当教員紹介											
近畿日本ツーリスト株式会社にて営業職を15年・株式会社コスモ・スペースに転職後制作・マネジメント部門においてタレント・マネジメントを統括。俳優・声優・タレント・歌手などのマネジメントを手掛ける。											
授業概要											
1人の作家が作品を生み出す背景を調べさせる。本来自分の足で現地へ赴く、などが理想ではあるが、先ずは手軽に、現在のネット情報から調べさせる⇒そして調べたことを、出来るだけ発表させて、ディスカッションさせる⇒その中の真実や疑わしい事柄を見つける。⇒確証のない事柄から、自分なりの作品解釈を見つける。⇒発表させる＝自信を持たせ、やりきる達成感や、他の学生から、新たな刺激を貰い、次のステップへ！											
到達目標											
本を読み解く事で、作者の思いや作品意図を掴み、字面では読めないことを想像し、自分なりの理解力を形にしていく。稽古し、発表の機会を増やすことで、成功・失敗を経験し、次の課題を生み出していく！作品を発表するための稽古は、コロナ禍で希薄になっている、人との繋がりが不可欠。強い社会生活の一端を担う。											
授業方法											
教室だけで完結させず、人前で発表することをゴールとして組み立てていく。 シナリオの読解力を向上させられるよう、作者の意図や演出側の考えをディスカッションさせながら深めていく											
成績評価方法											
平常点30%	授業参加態度を評価。										
課題30%	調べる・覚えるなどの課題を本人なりに努力しているか？を評価。										
参加度30%	発表会に向けての参加度。										
目標達成10%	授業初回に本人に目標を決めさせ、その過程を評価。										
履修上の注意											
発言の機会を与えても、なかなか言葉に出来ない学生もいるので、書かせたり、工夫する。稽古になると、自我が出る学生が誘導しないよう、引っ張る資質か、強制化かを見極める。学生が求める平等と、やる気のある学生は伸ばす！の境目に留意する。社会生活を送る上で、最低限の挨拶・理由のはっきりしない遅刻・欠席は心身の体調を見ながら指導。											
教科書教材											
課題プリント、台本をその都度配布											
回数	授業計画										
第1回	授業内容各回の到達目標										
第2回	新しい作品へ（2作品目の稽古が不十分だと感じたら引き続き全作品稽古）作家意図・内容を調べる										
第3回	作品を考える										
第4回	本読みクラスで意見交換する										
第5回	グループ稽古① 自分たちのアイデアを出させ、想像力を磨く										

2022年度 日本工学院専門学校	
声優・演劇科	
声優演技Ⅱ	
第6回	グループ稽古② 稽古シチュエーションや本の流れから面白さを探る
第7回	グループ稽古③ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第8回	グループ稽古④ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第9回	グループ稽古⑤ 稽古観客に本の面白さを理解させるために、他グループからも刺激を貰う（意見交換）
第10回	発表会リハ。人前で発表することでモチベーションの維持にも、また次回課題が見えることを期待
第11回	本番のビデオ上映。振り返り発表し、その日に振り返る
第12回	新しい作品へ（2作品目の稽古が不十分だと感じたら引き続き全作品稽古）作家意図・内容を調べる
第13回	作品を考える
第14回	本読みクラスで意見交換する
第15回	グループ稽古① 自分たちのアイデアを出させ、想像力を磨く
第16回	グループ稽古② 稽古に反映させていくことで、本の面白さを底上げしていく
第17回	グループ稽古③ 出ハケも含め、本人たち主導で動きもチェック
第18回	発表会リハ。最終発表会となるので今までとの違いが自覚出来ているか？またさらに課題が見えるかを認識させる
第19回	発表会
第20回	本番のビデオ上映。振り返りを行い、卒業してからの意欲に繋がることを期待